

令和2年度第2回広島市社会教育委員会議 議事の概要

日 時：令和3年3月8日（月）午後2時～3時30分

場 所：広島市役所本庁舎14階第7会議室

公開・非公開の別：公開

傍聴人：なし

出席者：委員（11名）

平尾委員、岩元委員、小田委員、松本委員、湯浅委員、仲西委員、板倉委員、鈴木委員、山川委員、山田委員、砂橋委員

事務局

橋場市民局次長、手島生涯学習課長、西本育成課長、池岡非行防止・自立支援担当課長、橋本放課後対策課長、熱田中央公民館社会教育主事、平田生涯学習課長補佐、井上主幹、妹尾主事

【議事（会議要旨）】

（1） 議長、副議長の選出

議長に小田委員、副議長に山川委員を選出

（2） 令和3年度生涯学習・社会教育関連予算案について

資料1に基づいて、令和3年度生涯学習・社会教育関連予算案について、概要を説明（手島課長、西本課長、池岡課長、橋本課長）

<質疑等>

（山川委員）

「生涯学習の推進」の「施設管理運営」の公民館管理運営について、今、公民館の利用者の高齢化、固定化、グループ・サークル数の減少や今日お話いただくようなリモートでのやり取りなど、変化が生じていると思うが、そういった新たな課題に対して対応できる形での予算編成がなされているのか。

例えば、公民館学習会などの予算の中で、リモートによる学習機会の提供など今日的課題に対して柔軟に対応する予算の使い方ができるようになっているのか。あるいは今言ったように、リモートに関してのインフラ整備など必要な気がするが、そのあたりへの予算対策というのはどうなっているのか教えていただきたい。

（手島課長）

広島市文化財団で令和3年度までの4年間という形で指定管理をしているが、指定管理料は、過去の状況、実績を見ながら予算化しているということで、当初に議決を受けているため中々数字を変えるというのは難しいところがある。指定管理者側の方で状況を見ながら、その指定管理の業務の中で、どのようにしていくかという形になる。人件費や特に施設関係で増額とかで認められるような部分があればだが、中々難しい状況である。

少し現場任せになるが、状況を見ながらということで、今回のコロナのようなことがあれば、通常のことではできず、その事業をリモートなどという形で振り替えていく、事業費を使用していくという形になるかと思う。大規模な機材や設備などで必要があれば財政当局とも話はできると思うが、そこまで大きなものがないため、少し難しいかと思う。主催事業を行うにしても今までとは変わった形のものになるということで、そういった実情があるということは伝えながらやっていきたいと考えている。

(山川委員)

少し検証していただくと、必要なことがみえてくると思う。新たに見えてきた課題に対して現場が対応できるバックアップ体制と予算措置をお願いしたい。オンラインなどICTを活用した学習環境についても、すぐ完璧な環境づくりは難しくても、早めに整備していただくことをお願いできればと思う。

それから、現場任せなどところがあると言われたいが、予算の使い方の裁量が、ある程度現場に任せられることはそれはそれでよいと感じている。

(小田委員)

以前から公民館の運営について色々皆さんの意見を伺っているが、中々新しい時代が変わっていけないのではないかと思う。

(3) 令和3年度社会教育関係団体への補助金の交付について

資料2に基づいて、令和3年度社会教育関係団体への補助金の交付についての概要を説明(手島課長、西本課長)

<質疑等>

(鈴木委員)

教育委員会にお聞きしたいが、このコロナ禍でおそらく今年度、昨年度は、行事が中々できなかったのではないかと思う。特に子供たちの居場所ということで、市子連(広島市子ども会連合会)、区子連(広島市区子ども会連合会)のフットベースボール、ソフトボールを非常に子供たちは楽しみにして地域でも一生懸命練習をしていたと思う。市P協(広島市PTA協議会)の方でも講演会など、非常に活発に活動されていると思うが、そのあたりの実施状況はお分かりになるか。

(西本課長)

委員がおっしゃるように、このコロナ禍で、事業がうまくできていないという話は各方面から聞いている。子供会からは、このような状況でも子供たちのため、感染症防止の対策を行った上で、お楽しみ会のようなものを開催したいとの相談があり、行事などで活動するために必要な感染症防止対策の消耗品などを購入する経費についても補助対象とすることを各子ども会、PTAに通知し、できる範囲で事業を進めてもらえるよう説明した。

(鈴木委員)

特に事業ができなかったとか、縮小されたから減額になることはないということによいか。

(西本課長)

令和3年度予算について、平成31年度の実績に基づき予算を組んでいるため、まだ減額にはなっていない。影響が問題になるのは令和4年度の予算ということになると思うが、コロナ禍であったことを踏まえると広島市全体の話であり、本市では、社会教育関係以外にも様々な団体に補助しており、この問題をどう捉えるかということとは財政当局の考え方に従ってということになる。もしそういったことがなければ、我々としては、これは特殊事情ということで、例年並みの予算確保を目指していくようにしたいと考えている。

(4) 生涯学習・社会教育におけるICTの活用について

資料3により、コロナ禍で公民館が取り組んできたリモート事業について、ZOOMを使用し各公民館からの対話を入れ事例発表を行った。(会場での進行:中央公民館 熱田社会教育主事、リモート:似島公民館、可部公民館)

(熱田社会教育主事)

本日は会議アプリ ZOOM を使って双方向のやり取りをご覧いただきたいのとセッティングがどんな風になっているかをご覧いただくためにこのようなスタイルでの発表にした。

この1年、私たち公民館の職員はネットワークをフル活用してつながることで、新しい公民館の事業を模索し続けてきた。コロナ禍で今までの集合対面型の公民館事業ができないからこそ考えることができ、チャレンジすることができたリモート事業だと思っている。SNSが当たり前の時代になってきており、今までの公民館事業だけでは公民館の存在意義が失われる危機感を私たちは感じている。これから先の公民館は何が求められているのかどのような公民館であるべきなのかを今考えて準備することが今必要なのではないかと考えている。

<質疑等>

(板倉委員)

私はあまり ZOOM というものは今まで使ったことがなかったが、どうしても参加したい講義があって、それで思い切ってやってみようと思い初めて参加してみたが、これに参加できたらどんな講義でもどんな場所でも受けられるということがわかり、私はとってもいいなと思った。これからいろんなことに参加してみようかなと思っている。それで、私みたいにこういったネット関係で、勉強はしつつも中々わかりづらいうところが多くて手を出せないということがとても多いため、できたらこれに参加できるような、勉強会、研修会があったが、ああいったことを色々広げていただければ参加できる人がたくさん増えるんじゃないかと思う。それをぜひお願いしたいなと思っている。

(仲西委員)

私共は、今色々コミュニティ活動の中で、こういったオンラインを使ったりしているが、相手が高齢の方だったりして、中々パソコンやITなどに入りにくいという方がいらっしゃると思う。おそらく公民館などでも結構高齢の方もたくさんいらっしゃると思うが、もし何か学習の工夫などされていることがあれば教えていただきたい。また、資料にもあったが、中々急なことで機材等の不足もあるということがあがるが、もしこんなものがあつたらもっとよりよくできるとか、逆にやっている側も中々色々うまくいかないこともあつたりすることがあると思うが、失敗から見るまた改善というのがあるかもしれない。もし、何かそういった事例等があればご紹介いただきたい。

(熱田社会教育主事)

まずは機材不足ということをお話しされたと思うが、リモートならではのものが必要なため機材は不足している。また、ビデオカメラなども今、各区の調整館にしかないため、各館にあるものではない。

ネット環境については、確かに広島市内の公民館は整備されているが、使える部屋も限られており、不安定なところもある。

いろいろな機材の不足はあるが、とにかく今年の1年はチャレンジ、何でもやってみようということで取り組んできた結果、何とかできた。

初めての母親を対象にしたオンライン子育て講座で、「次は対面で会いましょうね」と言うと、すごく楽しみにされていた。オンラインと対面するオフライン、この両方を使っていくということはとても有効だなと感じた。

そして、高齢の方のことだが、白木公民館は、地域包括センターと共催で ZOOM の講座を実施しており、アンケートでは皆さん、こういった機会があればやってみたいという高齢者の方の声がほとんどで、やはりそういう機会は必要だと感じた。

(砂橋委員)

私の体験から言わせていただくと、レクリエーション協会の80歳くらいの方が理事でいらっしゃるが、慣れた。慣れるにはどうしたらいいかというと、何回も何回も教えて電話でやり取りしながらやる。公民館で研修等でスマホを持ってきて繋げばできるが、繋ぐとこまでが大変で、そこをクリアすればよいと思う。とてもよかったのは、公民館が連携していることがすごい。従来なら1館でやっているためメニューは少ないが、ネットでつなげたことによって4館5館がつながり、限りなくいいものができる。なぜこんなことを言うかということ、レクリエーションの世界でも色々な研修でも今ZOOMを使っている。いわゆる8時間で東京へ行かなくても自宅で整備さえしておけばいい。会議に出れてお金も体力もかからないということで、益々広がっていく。公民館が長い間一部閉館していて、私は正直何しているのかと思っていたが、こんなすごいことを考えているから、もっとこれを広げていって、こんなことしているということをもスコミなどを使って知らせるということと、困ったら公民館に来たら教えますよとここをちゃんとうまく使い分けをされたら、すごく広がるし、面白い働きだと思う。

(平尾委員)

私たちのNPOは、特定の地域に根差した縦軸の活動ではなく、さまざまなテーマで活動している横軸のものである。このコロナ禍で拠点をもちながらもオンラインで展開している公民館の事例を拝見し、縦軸と横軸が交差しうる可能性にこういった場がなりうるのかなということ、話を伺いながら思った。先程のプラネタリウムや美術館などとの連携によって、自分の地域にいながらにしてそういったコンテンツが楽しめるというのはもちろんだが、私たちのようなNPOのテーマごとの活動主体、つまり防災や、私たちのように社会教育や、まちづくりのように、テーマで活動しているNPOと色々な地域が、縦と横とでうまく連携していくきっかけになりそうな気がして、楽しみだなというのをまず思った。

もう一つは、スキルを身につけて色んな人たちがスマホだったりパソコンだったりができるようになっていくというのはいいと思うが、そもそも持っていない人はどうするのかなとも思う。持っていない人は例えば地元の公民館に来れば見ることができるといったフォローも今後の課題かなと思う。

(山田委員)

私も大学でリモートの授業をやっているが、教育の面では本当にすごい便利に感じるのだが、その反面いろいろ問題点もあると感じている。公民館の活動はすばらしいものであるが、例えば、世代の問題、高齢の方は慣れるというのはあったが、うちの父母などは何度教えてもできない。また、逆に若い世代にも、うちの学生の中にはスマホで授業を受ける人がいるが、スマホで授業聞くとわからない。要するにパワーポイントで大きな字で写すが、スマホでは資料を読めなくて、内容が入って来ない。

しかも、集中できないと50分も持たなくてそれが学習資料ではなくなって、要するに普通の授業でも中々集中力を保たせるのが難しいのだが、オンラインだと全然保たないため、50分もたつとマイクからしゃべっているような声が聞こえてきたりとか。だから、可能性の面もあるが、中々改善しないといけない問題点もたくさんあると思うため、その辺を色々工夫しなければいけないということを感じている。

(小田委員)

実際にリモートで事業をやっている立場というものを御理解いただけたと思う。中々問題点とかもたくさんあると思うが、広島市でのこの公民館での活動というものが、非常に一つの資産だと思う。先生がおっしゃったように、実は私の両親もだめでした。その辺は、そういった人たちがわかるようになって初めてこのリモートが生きると思う。そこに行くにはどうしたらいいかというのをこれからこの社会教育委員の中でも市の方でもどうしたらいいかっていうのを課題としていただければと思う。

それから思うのは、こういったものが発達することによって、もう一つの問題があり、対面対人関係がダメになる。これじゃないと話ができなくなる。こういう問題が出てくるということもある。だから両面でできる可能性がどうあるかということのをこれからの課題として、全国の社会教育でもこういった課題に混迷しているわけで、ここを広島市の方でも一つのページにしながら広げていくということが今後できれば、素晴らしい活動になるような気がしてならない。

(5) その他

ア 社会教育委員が関係する他都市での会議等の予定

資料4に基づいて、社会教育委員が関係する他都市での会議等の予定について、概要を説明（手島課長）

イ 広島市似島公民館の優良公民館文部科学大臣表彰「優秀館」の受賞について

資料5に基づいて報告（手島課長）

ウ 広島市子供の読書活動推進のための取組（令和3年度以降）について

資料6に基づいて報告（手島課長）

エ その他

資料7に基づいて、「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」を踏まえた事例・施策集について参考に紹介（手島課長）